

市長記者会見記録

日時：2022年3月3日（木）14時00分～14時17分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《市政一般》

【司会】 ただいまから定例市長記者会見を始めます。本日の議題は、市政一般となっております。

それでは、早速質疑に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いたします。

《ロシアのウクライナ侵攻について》

【神奈川（幹事社）】 幹事社です。よろしくお願いたします。

【市長】 お願いたします。

【神奈川（幹事社）】 まず、ウクライナ侵攻について幾つかお伺いします。川崎市は企業向けの相談窓口を設置していますし、エネルギー関連でも影響が懸念されていますけれども、市内で何か具体的に影響が出ているものがあれば教えてください。それと、質問するタイミングとしては早いかもしれませんが、避難民の受入れなど、市として対応を考えているようなことがありましたら、それも併せて教えてください。最後、川崎市は平和都市宣言をされていますけれども、そういった立場も踏まえて、この侵攻に関してどういうお考えなのか教えてください。

【市長】 まず、今回の侵攻に関しての影響ですけれども、相談窓口を設けましたけれども、まだ相談はないという状況です。今後のことなんですけれども、やはりエネルギーというか、原油高が日々更新されていますけれども、そういったことが、本市経済だけではなく幅広いところに影響が出てくると思いますので、その辺りは非常に懸念しているところではあります。

それから、避難民の受入れの話というのは、まだ今現時点でどうのこうのというのを考えているわけではありません。

それから、私どもの川崎市も、全国の都道府県、政令指定都市に先駆けて、核兵器廃絶平和都市宣言を行った自治体でございますので、プーチン大統領が核使用について言及されるということ自体が大変遺憾で、侵略は本当にとんでもないというか、こ

うということが絶対にあってはならないと強く抗議をしたいと思いますし、核兵器のことについて、一国の指導者が、核保有国の指導者が言及したということは非常に衝撃で、断固抗議したいと思います。私どもが加盟している市長会等々で、それぞれコメントを発表していますので、まさにそういう形で、自治体としても声を上げていかなければならないとは思っています。

【神奈川（幹事社）】 抗議ということですがけれども、具体的に動きとして考えていらっしゃるかどうか。

【市長】 私どもが加盟しているそれぞれの団体のところでコメントを発表し、抗議の意味も伝えているということでもあります。

《「多摩川スカイブリッジ」の開通について》

【神奈川（幹事社）】 話変わります、12日に多摩川スカイブリッジが開通します。いよいよというところですがけれども、改めてになりますけれども、開通を間近に控えての御所感を聞かせてください。あと、橋には将来的に水素のパイプラインを通せるような空間もあると聞いているんですけれども、水素戦略における橋の位置付け、期待される役割などありましたら、期待とともに教えていただければと思います。

【市長】 先週末などもイベントをやって、屋外ですから、あまり密にならないようにという配慮をしながらですがけれども、非常に多くの皆さんに来ていただいたりして、関心の高さを感じ取っています。また、関心の高さというか、期待ということを感じているところです。いよいよ3月12日につながることになりますけれども、この前も申し上げたように、羽田がコロナ後に国際空港としての機能を存分に発揮するようになってくれば、当然多摩川スカイブリッジの役割はより大きいものになるかなと思っています。まさに世界につながる橋、川崎と世界をつなげる橋として大いに期待しているところです。

【神奈川（幹事社）】 あと、水素戦略。

【市長】 もともとの設計のところから、そういったことも想定して設計はしておりますけれども、具体的にそれが今どう使うかということになっているわけではありません。今後、水素利用というのは、川崎市を超えていくことは当然考えられるわけで、そういう話につながればいいなとは思っています。

《小児医療費助成制度について》

【神奈川（幹事社）】 また、話変わりますけれども、小児医療費の助成の関係なんですけれども、先日の代表質問でも取り上げられておりましたけれども、市長の御答弁で、国が一律で支払うべきだということをおっしゃられていました。それは理解でき

ますけれども、一方で、自治体間の格差による市民の不公平感というのもあると思います。その点についてはどのように御説明されますか。

【市長】 私も小児医療費の助成制度というのは大変重要な子育て施策の一つだと思っていて、ただ、子育て環境というのは非常に幅広い施策事業で成り立っているものであって、この一つでもって、全体の子育ての環境がどうかということで捉えられるのはちょっと違うとは思っています。そうした意味では、答弁でもしていますけれども、妊娠前からも含めてでありますけれども、出産、子育て、青少年期に至るまでの一連の総合的な施策の中でしっかりとカバーしていきたいとは思っています。

やはり強調したいのが、この間、医療費助成制度の話というのは自治体間競争みたいな形になって、隣がそうなったからというふうな、どんどん、どんどん上がってきたということもあります。これは本当におかしな話だと思っていて、私も以前公約をして、小学校2年生から6年生にとかという形で、また、入院のところは中3までと上げてきた経緯もあるんですが、しかし、この状態は決していい形ではないなと思っています。ですから、早く国のほうで一律のものを規定していただくことが何よりも大事だと思っています。市民の皆さんからの声、あるいは各会派からいただいているお声も十分理解しておりますし、その辺りはしっかり受け止めていきたいと思っています。

【神奈川（幹事社）】 ありがとうございます。私からは以上です。

《新型コロナウイルス感染症について》

【t v k（幹事社）】 幹事社のt v kです。よろしくお願ひします。今の市内のワクチン接種の状況について伺いたいです。接種率とか。

【市長】 接種状況ということでよろしいでしょうか。

【t v k（幹事社）】 はい。

【市長】 まず、昨日現在のところでありますけれども、全体で追加接種のところは29万2,000回になりまして、全体の接種率でいくと23%になります。ちなみに、65歳以上でありますと72.68%になっております。

【t v k（幹事社）】 ありがとうございます。昨日、報道発表があったように、当日予約の受付であったりとかエッセンシャルワーカーの対象を増やすという広報がありました。これは、なかなか大規模接種会場の予約が埋まらずに広がっていくという状況なんでしょうか。

【市長】 両方の意味があると思います。少し枠に余裕があるので、エッセンシャルの方、もう少し入ってくださいということもそうですし、エッセンシャルワーカーの

方はとにかく早く打っていただきたいので、6か月を超えれば速やかに打っていただきたいという、促していくという両方の側面があります。

【t v k（幹事社）】 ありがとうございます。あと、3月1日から小児ワクチンの予約も始まっていると思うんですけど、市のほうで予約率というか、埋まり状況って把握されていますか。

【市長】 3月1日時点の予約状況でありますけれども、今現在、19施設で予約を受け付けております。定員が857に対して797、現時点では予約をされているということでもあります。今後、施設数が徐々に増えていきます。最終的には150施設で接種できるような体制を整えていきます。そうした中で、受けたと思われる方に対する選択肢を徐々に増やしていきたいと思っております。

【t v k（幹事社）】 小児ワクチンって、打つ人が多いか分からない状況の中でスタートしていると思うんですけど、市長として、この数字を見て感覚的にはいかがですか。

【市長】 それぞれ個別の医療機関が、小児科医の方が中心になりますけれども、まず、子供さんたちの基礎疾患があるということをお自身の医療機関でよく把握されているので、その方々には、まずされますかということ、それぞれの医療機関が問合せをさせていただいていると聞いています。

【健康福祉局】 ありがとうございます。ワクチン調整室でございます。小児接種の状況でございますけれども、ただいま市長から御紹介いただいた施設の部分については、市の予約サイトを御利用いただいている医療機関、今現在は、おっしゃっていただいたとおりに、それぞれの小児科を中心として、まずはかかりつけ、その中でも基礎疾患等がある方へお声がけをいただきながら予約状況に対応させていただいていると。今後、4月以降、小児のワクチンもだんだんと入ってくると伺っておりますので、また、基礎疾患のないお子さんたちの接種状況に取り組んでいくというような推移かなと想定しているところでございます。

以上でございます。

【市長】 そうした意味では、予約サイトのほうはまだ定員には達していないということでもありますし、こういう滑り出しかなとは思っております。

【t v k（幹事社）】 ありがとうございます。最後にお聞きしたいんですけども、県のほうでは保育所を原則開所して、濃厚接触者は特定しないという方針を打ち出している中で、川崎市は3日間はとりあえず休園して、みなし濃厚接触者で対応するという方針を出していると思うんですけども、県の方針に対して所感というか、思わ

れるところはありますか。

【市長】 とにかく感染を広げないという形で、今やっております。「市長への手紙」も含めて、いろんな御意見あります。正直、もっと厳しく休園すべきだという御意見から、その必要は全くないと言われる方まで、もう本当に幅広いあれなんですけれども、あくまでも専門家の御意見を交えながら、感染を広げないような体制をするという形で今進めておりますので、いろんな御意見あると思いますが、今現時点での保健所の状況ですとか保育所の状況から考えればベストの方法だと思って、地域の実情に合わせたやり方をやっていると考えています。

【t v k（幹事社）】 ありがとうございます。

幹事社からは以上です。

《等々力緑地の再編整備について》

【t v k（幹事社）】 テレビ神奈川です。もう一つお願いします。等々力緑地の再整備計画についてなんですけれども、先月、きっちりまとまったものが公表されています。中でも、いろんな注目点ある中で、陸上競技場がサッカーの専用スタジアムになるということが、一つ、きっちり形として提示されました。これについて、市長の所感をぜひ聞かせてください。

【市長】 サッカーの関係から言うと、専用スタジアムは悲願だったという部分もあって、ただ、そこをどうやって陸上競技との両立を図っていくかというのが、これまでずっと議論があったところなんですけれども、そういった意味で、陸上関係者の皆さんともしっかり協議をしながら、陸上競技場はまた別途の形で作っていくという形で整理ができたので、そういった意味では、お互い良い状況になっていく計画になっていると思っています。陸上競技もサッカーとの調整をしながらということで、なかなか使い勝手もよくないというお声もいただいていたので、すみ分けることによって、それぞれの機能が最大限に生かされるようなものになると期待しているところです。

【t v k（幹事社）】 今までの経緯なんかも踏まえていきますと、かなりいいバランスで、お互いに本当にウィンウィンのような状況になったのかなと伺ったんですが、皆さんの反応、反響も同じような状況ですか。

【市長】 と私は理解しています。今ある陸上競技場に対する思いのある方は当然いらっしゃるっちゃって、やっぱり中学校で、あそこで、等々力のあの陸上競技で走るということが、それぞれの思い出とかステータスになっていたりというのがあったので、そういう関係者から見ると、ちょっと寂しいという声も聞かないわけではありません。ただ、利便性だとか、それぞれの競技団体と相当議論してきた中で、一定の方向性で

すので、そういった意味では皆さんに歓迎していただけるのではないかなと思っています。また、等々力緑地全体のスポーツの聖地的な形にぐっと近づくのではないかなとは思っています。

【t v k（幹事社）】 今、最後、「スポーツの聖地」というお言葉ですけども、プロ野球であったりプロスポーツがなかなか根付きにくいという今までの歴史がある中で、これ、かなり市としても力を入れていく部分なのかなと思うんですが。

【市長】 そうですね。おかげさまで、プロも社会人も、あるいは若者文化をはじめ、様々なスポーツが川崎に非常に根付いてきたということもありますし、そのこと自体を、する、見る、支えるという私たちのスポーツ振興計画の中でうたっているんですが、こういうことがバランスよくできる環境が整ってきているのではないかなと思っています。

【t v k（幹事社）】 ありがとうございます。

【神奈川（幹事社）】 幹事社からは以上ですので、ほかの社あれば、お願いします。

【市長】 よろしいでしょうか。

【司会】 そのほか、御質問いかがでしょうか。御質問はよろしいでしょうか。

それでは、以上で本日の市長記者会見を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

（以上）

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

（お問合せ）川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044（200）0312